

地域計画

策定年月日	令和6年3月31日
更新年月日	令和7年10月10日 (第1回)
目標年度	令和15年度
市町村名 (市町村コード)	大分県由布市 (442135)
地域名 (地域内農業集落名)	南田代 (南田代)

注:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域計画の区域の状況

区域内の農用地等面積(農業上の利用が行われる農用地等の区域)	41.3 ha
① 農業振興地域のうち農用地区域内の農地面積	41.3 ha
② 田の面積	41.3 ha
③ 畑の面積(果樹、茶等を含む)	0.0 ha
④ 区域内において、規模縮小などの意向のある農地面積の合計	0.0 ha
⑤ 区域内において、今後農業を担う者が引き受ける意向のある農地面積の合計	20.1 ha
(参考) 区域内における80才以上の農業者の農地面積の合計	7.1 ha
うち後継者不在の農業者の農地面積の合計	0.0 ha
(備考)	

注1:①については、農業振興地域担当部局と調整の上、記載してください。

2:②及び③については、農業委員会の農地台帳の面積(現況地目)に基づき記載してください。

3:④については、規模縮小又は離農の意向のある農地面積を記載してください。

4:⑤については、区域内に特定することができない場合には、引き受ける意向のあるすべての農地面積を記載の上、備考欄にその旨記載してください。

5:(参考)の区域内における〇才以上の農業者の農地面積等については、できる限り記載するように努めてください。

6:「区域内の農用地等面積」に遊休農地が含まれている場合には、備考欄にその面積を記載してください。

(2) 地域農業の現状及び課題

地域内で主に栽培している作物は、裸麦・小麦・ハトムギ・大豆・白ねぎ・水稻である。現在取組を行っているものは、有機・減農薬・減肥料栽培、スマート農業、農地の保全・管理、水田の畑地化である。そのほか、堆肥投入を進めているところである。地域が抱える課題として農業者の高齢化、農業者の減少、後継者の不在、農業にかかる経費の増加、農家収入の低下、新規の担い手不足、遊休農地の増加、鳥獣被害の増加、農業用機械の購入ができないといったことが挙げられる。基盤整備後の減反田を荒らさないように地区で農事組合法人を立ち上げ、現在は何とか活動出来ているが5年後、10年後を考えると上記項目全てが不安要素である。(水稻は個人で作付けしており、法人では作付けしていない)

(3) 地域における農業の将来の在り方(作物の生産や栽培方法については、必須記載事項)

地域の中心となる経営体に積極的に集積すること、地域資源を生かした特産品の生産や加工販売に取り組むこと、減農薬、化学肥料削減を行い環境保全型農業に取り組むことを目指す。また地域の所得向上に向け、作物のブランド化、法人の強化・集積に取り組むと考えている。何名かを固定人件費で採用出来る法人組織ができればと思う。そのため年間を通した農作業が出来る作物を探し、地域の所得向上を目指している。また、新規作物の導入として、作りやすい作物(オクラ・落花生)等の試作中である。

2 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標

(1)農用地の効率的かつ総合的な利用に関する方針					
農事組合法人を中心となる経営体として位置づける。当面は所有者で耕作を行っていくが、将来的には農事組合法人を中心に農地集積を行う。					
(2)担い手(効率的かつ安定的な経営を営む者)に対する農用地の集積に関する目標					
現状の集積率	21	%	将来の目標とする集積率	66	%
(3)農用地の集団化(集約化)に関する目標					
農事組合法人に集約化することを目指す。					

3 農業者及び区域内の関係者が2の目標を達成するためとるべき必要な措置

(1)農用地の集積、集団化の取組	
地区では農業用水の確保が困難なため、連作障害などの対応が出来にくく、用水路(小平井路)の改修を関係機関にお願いしている。改修できれば、色々なことが出来やすくなると思われる。	
(2)農地中間管理機構の活用方法	
・地域の農地所有者は、原則として農地中間管理機構への貸し付けを進める。 ・法人として耕作している借地については、全て農地中間管理機構との契約をしている。	
(3)基盤整備事業への取組	
昭和の終わりに地区80%以上基盤整備は一度済ませている。しかし、典型的な中山間であり、圃場1枚がほとんど10a未満であるため、更なる基盤整備ができればと思うが、工事方法及び経費面が懸念事項である。	
(4)多様な経営体の確保・育成の取組	
・現在水稻は個人で作付け(およそ9町半)しているが、近い将来、法人でまとめた。 ・企業や外部との連携は今までは考えていないし、今の現状では考えられない。	
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業体等への農作業委託の取組	
・農事組合法人はほぼ100%農業協同組合の支援に頼っている。(生産物販売及び肥料などの資材)しかし近年の物価高騰対策の更なる支援をお願いしたい。	

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組内容を記載してください)

☐ ①鳥獣被害防止対策	☒ ②有機・減農薬・減肥料	☒ ③スマート農業	☐ ④輸出	☐ ⑤果樹等
☐ ⑥燃料・資源作物等	☒ ⑦保全・管理等	☐ ⑧農業用施設	☒ ⑨その他	
【選択した上記の取組内容】				
②減肥料目的のため、堆肥の投入を続けている。JA等の指導により、農薬・肥料を使っている。 ③麦・ハトムギ・大豆についてはヘリやドローンによる防除を行っている。 ⑦連作障害防止の対策として、順次水張りを行っている。またブームスプレーヤーによる適宜散布(除草剤他)を行っている。 ⑨水田の畑地化・堆肥投入				

4 地域内の農業を担う者一覧(目標地図に位置付ける者)

※経営面積 0ha = 0.1ha未満の担い手

属性	農業を担う者 (氏名・名称)	現状			10年後 (目標年度:令和 15 年度)				
		経営作目等	経営面積	作業受託面積	経営作目等	経営面積	作業受託面積	目標地図上の表示	備考
利用者		水稲、野菜等	1.7 ha	— ha	水稲、野菜等	0.1 ha	— ha	1	
利用者		水稲、野菜等	0.6 ha	— ha	水稲、野菜等	0.4 ha	— ha	2	
利用者		水稲、野菜等	0.9 ha	— ha	水稲、野菜等	0.2 ha	— ha	3	
利用者		水稲、野菜等	1.6 ha	— ha	水稲、野菜等	0.9 ha	— ha	4	
利用者		水稲、野菜等	0.2 ha	— ha	水稲、野菜等	0 ha	— ha	5	
利用者		—	— ha	— ha	水稲、野菜等	0.2 ha	— ha	6	
利用者		水稲、野菜等	0.6 ha	— ha	水稲、野菜等	0.4 ha	— ha	7	
利用者		水稲、野菜等	0.6 ha	— ha	水稲、野菜等	0.1 ha	— ha	8	
利用者		水稲、野菜等	0.5 ha	— ha	水稲、野菜等	0.2 ha	— ha	9	
利用者		水稲、野菜等	0.9 ha	— ha	水稲、野菜等	0.7 ha	— ha	10	
利用者		水稲、野菜等	0.1 ha	— ha	水稲、野菜等	0 ha	— ha	11	
利用者		—	— ha	— ha	水稲、野菜等	0 ha	— ha	12	
利用者		水稲、野菜等	1.6 ha	— ha	水稲、野菜等	0.3 ha	— ha	13	
利用者		水稲、野菜等	0.6 ha	— ha	水稲、野菜等	0.5 ha	— ha	14	
利用者		水稲、野菜等	0.9 ha	— ha	水稲、野菜等	0.6 ha	— ha	15	
利用者		水稲、野菜等	1 ha	— ha	水稲、野菜等	0.5 ha	— ha	16	
利用者		水稲、野菜等	1.4 ha	— ha	水稲、野菜等	0.8 ha	— ha	17	
利用者		水稲、野菜等	1.2 ha	— ha	水稲、野菜等	0.7 ha	— ha	18	
利用者		—	— ha	— ha	水稲、野菜等	0.5 ha	— ha	19	
利用者		—	— ha	— ha	水稲、野菜等	0.6 ha	— ha	20	
利用者		水稲、野菜等	1.3 ha	— ha	水稲、野菜等	0.6 ha	— ha	21	
利用者		水稲、野菜等	0.9 ha	— ha	水稲、野菜等	0 ha	— ha	22	
利用者		水稲、野菜等	1.3 ha	— ha	水稲、野菜等	0.2 ha	— ha	23	
利用者		水稲、野菜等	0.8 ha	— ha	水稲、野菜等	0.4 ha	— ha	24	
利用者		水稲、野菜等	0.5 ha	— ha	水稲、野菜等	0.1 ha	— ha	25	
利用者		水稲、野菜等	0.8 ha	— ha	水稲、野菜等	0.8 ha	— ha	26	
利用者		水稲、野菜等	0.4 ha	— ha	水稲、野菜等	0.3 ha	— ha	27	
利用者		水稲、野菜等	1 ha	— ha	水稲、野菜等	0.9 ha	— ha	28	
利用者		水稲、野菜等	1.5 ha	— ha	水稲、野菜等	0.7 ha	— ha	29	
利用者		水稲、野菜等	0.8 ha	— ha	水稲、野菜等	0.6 ha	— ha	30	
利用者		水稲、野菜等	0.5 ha	— ha	水稲、野菜等	0 ha	— ha	31	
利用者		水稲、野菜等	0.3 ha	— ha	水稲、野菜等	0.1 ha	— ha	32	
認農・集		水稲、野菜等	0 ha	— ha	水稲、野菜等	0.7 ha	— ha	33	
認農・集		水稲、野菜等	8.6 ha	— ha	水稲、野菜等	26.6 ha	— ha	34	
計	34経営体		33.1 ha	0 ha		39.7 ha	0 ha		

注1:「属性」欄には、認定農業は「認農」、認定新規就農者は「認就」、法人化を行うことが確実であると市町村が判断する集落営農は「集」、基本構想水準到達者は「到達」、農業協同組合は「農協」、農業支援サービス事業体(農協を除く)は「サ」、上記に該当しない農用地等を継続的に利用する者は「利用者」の属性を記載してください。

2:「経営面積」「作業受託面積」欄には、地域計画の対象地域内における農業を担う者の経営面積、作業受託面積を記載してください。

3:農業を担う者に位置付ける場合は、できる限りその者から同意を得ていること。

4:作業受託面積には、基幹3作業の実面積を記載してください。なお特定農作業受託面積は、作業受託面積に含めず、経営面積に含めてください。

5:備考欄には、農業を担う者として位置付けられた者に不測の事態に備えて、代わりに利用する者を記載するよう努めてください。

5 農業支援サービス事業体一覧(任意記載事項)

番号	事業体名 (氏名・名称)	作業内容	対象品目

6 目標地図(別添のとおり)

7 基盤法第22条の3(地域計画に係る提案の特例)を活用する場合には、以下を記載してください。

農用地所有者等数(人)		うち計画同意者数(人・%)	
-------------	--	---------------	--

注1:「農用地所有者等」欄には、区域内の農用地等の所有者、賃借人等の使用収益権者の数を記載してください。
注2:「うち計画同意者数」欄には、同意者数を記載してください。
注3:提案する地区の対象となる範囲を目標地図に明記してください。

(留意事項)

農業を担う者を位置付ける際、これらの者の氏名が含まれた地域計画について、法令に基づく手続として、本人の同意なく、関係者の意見聴取や、地域計画の案の縦覧、地域計画の公告を行うことができますが、個人情報保有するに当たっては、利用目的をできる限り特定し、本人から直接書面に記録された個人情報を取得するときは、あらかじめ、本人に対し、その利用目的を明示してください。

また、市町村の公報への掲載等とは別に、インターネットの利用により関係者以外の不特定多数に対して情報を提供する場合は、氏名を削除するなど配慮してください。

必要に応じて区域内の農用地の一覧を参考として添付してください。